

# たまねぎレポート【358号】



平成29年8月26日

阪南青果株式会社

## 社内報

7月の天候は、北・西日本で月平均気温がかなり高かった。北日本の太平洋側の月間日照時間はかなり多かった。北・東・西日本の日本海側では、局地的に大雨があり、5～6日には九州北部に豪雨が発生するなど、各地で河川の氾濫や土砂災害が発生した。また、東日本の日本海側の月間降水量はかなり多かった。8月は、北・東日本で連続降雨日数が20日を超え、日照不足で野菜の生育、出荷が停滞し、品薄高が続いている。

気象庁の9～11月の3か月予報では、この期間の平均気温は全国的に高い確率50%。降水量は、東日本の太平洋側と西日本で平年並み亦は少なく、残暑が厳しくなる。月別予報は次の通り。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ない。

10月、全国的に天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、平年に比べ晴れの日が多い。北日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨亦是雪の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。

## **需要(市場)の動き**

### **野菜の概況**

7月の建値市場の野菜の入荷は、福岡市場以外は前年同月を上回った。平均単価はいずれの市場も前年比安であった。市場別に入荷量と販売単価は、札幌市場は前年比104%の入荷で、平均単価はkg¥201前年比89%(前月比84%)。東京市場は前年比105%の入荷で、平均単価はkg¥226で前年比85%(前月比88%)。名古屋市場は前年比106%の入荷で、平均単価はkg¥213前年比84%(前月比88%)。大阪本場は前年比100%の入荷で、平均単価はkg¥215で前年比84%(前月比89%)。福岡市場は前年比96%の入荷で、平均単価はkg¥161で前年比82%(前月比93%)となっている。

玉葱の入荷は、府県産地の在庫増に加え輸入物の在庫増からいずれの市場も前年を上回った。平均単価は、前年同月比大幅安であった。市場別に入荷量と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比133%、平均単価はkg¥92前年比60%。東京市場の入荷は前年比110%、平均単価はkg¥94前年比55%。名古屋市場は前年比116%の入荷で、平均単価はkg¥85前年比53%。大

阪本場は前年比109%の入荷で、平均単価はkg¥81前年比43%。福岡市場は前年比102%の入荷で、平均単価はkg¥110前年比74%となっている。

日本農業新聞社が独自集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の、主要野菜14品目の7月の販売量は、85,694トン前年102%(前月比96%)、平均単価はkg¥121前年比75%(前月比86%)、入荷が前年比増となっているのはトマト、パレিশヨ、サトイモの前年比19%増を始め、ナス、16%増、ダイコン、タマネギが14%増など9品目。前年比減は、ニンジンの前年比19%減を始め、レタスが9%減、キャベツが5%減など5品目。価格が前年比高となっている品目は皆無で、前年比安は、タマネギの前年比50%安を始め、ダイコンが41%安、ニンジンが40%安など14品目となっている。

東京都中央卸売市場の7月の野菜の入荷は、125,226トン前年比105%(前月比96%)。平均単価はkg¥226前年比85%(前月比88%)であった。主要品目で入荷が前年比増となったのは、ハクサイの16%増を始め、ナスの15%増、タマネギの10%増など10品目。前年比減となったのは、生シイタケが96%、ネギが97%、パレিশヨが98%など5品目。前年比高であった品目は、生シイタケが103%、ハクサイが101%の2品目だけ。他方、前年比安であったのは、タマネギが前年比55%、ダイコンが63%、ニンジンが67%など13品目で、ほぼ全面安の展開となっている。

### 東京都中央卸売市場の7月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	125,225	104.7	95.7	226	85.2	87.6
た ま ね ぎ	8,876	109.8	85.0	94	55.1	93.1

キ ャ ベ ツ	16,597	102.2	108.3	59	81.1	75.6
レ タ ス	9,867	98.5	111.8	110	85.1	83.3
だ い こ ん	8,891	107.3	110.2	76	63.4	69.7
ト マ ト	8,742	111.2	99.5	272	84.6	88.9
き ゆ う り	7,255	106.1	95.9	248	76.6	96.5
は く さ い	6,679	115.5	106.2	55	101.4	76.4
に ん じ ん	6,562	107.0	94.5	100	66.9	70.4
ば れ い し ょ	5,506	98.1	60.9	136	78.6	91.9
か ぼ ち ゃ	2,480	91.9	83.9	238	112.2	102.6
な が い も	934	86.3	105.3	488	117.9	92.3
に ん に く	260	95.0	85.5	1,010	101.8	100.7
れ ん こ ん	212	103.0	127.7	820	86.6	60.9

## 玉葱の概況

### 東京市場

東京都中央卸売市場の7月の玉葱の入荷量は、8,876トン前年比110%（前月比85%）で、潤沢な出回りで荷凭れ傾向が続いた。兵庫と佐賀が主力で、兵庫物の入荷は2,613トン前年比83%、占有率は29%で前年比10ポイントダウン。佐賀物の入荷は2,034トン前年比251%、占有率は23%で前年比13ポイントアップ。続く香川物の入荷は1,640トン前年比231%、占有率は19%で前年比10ポイントアップ。栃木、愛知物の入荷も前年比2桁増であった。平均単価はkg¥94前年比55%（前月比93%）で、弱含みで推移した。国内産の入荷が潤沢であったことに加え、昨年病害による減産で高騰した経緯を踏まえ、輸入物を手当てをしたユーザーが多く、引き合いが鈍く、相場は低迷した。産地別では、兵庫物はkg¥96前年比47%、佐賀物はkg¥92前年比70%、香川物はkg¥103前年比52%となっている。量販店などでは、昨年の様な品

薄高を警戒して、ニュージ物を手当てした店が多く、特にMサイズの動きが鈍化し、荷凭れ状態が続いた。

8月に入り、月初めは入荷が少なめであったが、北海物の入荷が日々増加するとの見通しから、値下げをしても売り切ることを優先したものの、量販店の多くはニュージ物の見切り販売をされていて、割高の府県産の販売を手控える状態で、拡販は思うに任せず、特にM、Sが厳しい販売となった。盆休みを控えて、府県の主力産地である淡路、佐賀ともに指値が高く、追随販売に努めるも荷動きは鈍化の一途をたどった。北海物も8日からの販売となったが、販売環境は厳しく産地の希望値を確保するのは困難であった。8月に入ってから、雨天曇天続きで日照不足となり、北海産地も収穫、出荷が後ずれして、中旬の入荷は予想を大きく下回った。上旬の入荷は3,606トン前年比147%、平均単価はkg¥89前年比47%。内北海物の入荷は275トン前年比113%、平均単価はkg¥90前年比44%。中旬の入荷は2,502トン前年比84%、平均単価はkg¥91前年比52%。内北海物の入荷は1,447トン前年比73%、平均単価は87前年比49となっている。中旬には、北・東日本の長期の連続降雨と日照不足から、多くの野菜の出回り量が減少し、品薄高となった。玉葱も北海物の入荷が後ズレしたことで入荷減となり、淡路、佐賀などの府県物が値上がりした。此処に来て、佐賀物はほぼ終了し、兵庫物も入荷は日々減少傾向で、今月末には一部を除いて終了する。9月からは北海物中心の販売となるが、販売環境は厳しい。

### 名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の7月の玉葱の入荷量は、4,077トン前年比116%（前月比90%）で、潤沢であった。主力は兵庫物で兵庫物の入荷は2,651トン前年比116%、占有率は65%で前年と同じ。北海物が631トンの入荷で前年比168%、占有率は15%前年比4ポイントアップ。愛知物は560トンの入荷で前年比102%、占有率は14%で前年比2ポイントダウン。平均単価はkg

¥85前年比53%(前月比94%)で、弱保合で推移した。産地別では、兵庫物はkg¥94で前年比46%、北海物はkg¥60で前年比133%。愛知物はkg76で前年比94%となっている。

8月に入り、北海産地からの販売打診が多々あったものの、未だ小売店では兵庫物の指定が多く、北海物を販売出来る目途が立たず、売り込みを掛けられる状態ではなかった。昨年はこの時期、品薄高が続き、北海物の入荷を待望したことを思うと環境は様変わりである。盆前から北・東日本の天候不順で、多くの野菜が品薄高傾向となったのを受けて、玉葱の販売環境もやや持ち直し、兵庫物は産地高から追随販売となり、20kg¥2,200~2,000で¥100~200の値上げ販売となったが、荷動きは今一つであった。北海物の初荷は、¥1,800~1,600で兵庫物に比べ割安であったが、動きが鈍く受け皿探しに苦勞した。特にL、Mは引き合いが弱く厳しい販売となった。此処に来て、兵庫物の入荷は日々減少し、北海物主力の販売に移行しているが、販売環境は厳しさを増している。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の7月の玉葱の販売量は、3,489トン前年比109%(前月比99%)で、順調であった。産地は15道府県と輸入2か国の計17銘柄と多彩で、産地在庫が豊富であったことを表している。主力は兵庫(淡路)物で入荷は2,587トン前年比104%、占有率は74%で前年比4ポイントダウン。長崎物は247トンの入荷で前年比84%、占有率は7%で前年比2ポイントダウン。佐賀物は120トンの入荷で前年比524%、占有率は3%で2ポイントアップ。和歌山、愛媛、富山などの中小産地の多くが前年比増であった。平均単価はkg¥81前年比43%(前月比89%)で、軟調に推移した。産地別の平均単価は淡路物はkg¥87前年比42%、長崎物はkg¥30前年比63%、佐賀物はkg¥71前年比55%となっている。

8月に入って、佐賀物の入荷は殆どなく、淡路物主力の販売で入荷は順調で、

例年になく銘柄が多い。荷動きは鈍く、相場は高値が少なく中値、安値が多くなった。盆前から、盆需要の手当て買いで引き合いが強まり、入荷の減少傾向と相俟って相場は強含みとなったが、北海物と呼ばれ込むほどの状態ではなかった。北海物は昨年より5日遅れて10日の初売りとなったが、L大 ¥1,800、L ¥1,400の祝儀相場をつけたものの、人気なく半分以上が売れ残った。他方、淡路物は20kgDB詰が引き合い強く値上がりした。今週も、淡路物のは入荷は順調で、相場は価格差はあるものの保合。北海物は弱保合で特にL、Mが安い。1日～20日の入荷は1,814トン前年比107%（兵庫121%、北海49%）。平均単価はkg ¥88前年比41%（兵庫38%、北海47%）となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の7月の玉葱の販売量は、3,171トン前年比102%（前月比94%）で概ね順調であった。佐賀物主力の販売で、佐賀物のは入荷は1,904トン前年比185%、占有率は60%で前年比27ポイントアップ。北海物のは500トンの入荷で前年比123%、占有率は16%で前年比3ポイントアップ。長崎物のは249トンの入荷で前年比78%、占有率は8%で前年比2ポイントダウン。平均単価はkg ¥110前年比74%（前月比96%）で軟調に推移した。産地別の平均単価は、佐賀物がkg ¥103前年比74%、北海物がkg ¥122前年比111%、長崎物がkg ¥117前年比82%となっている。

8月に入り、佐賀を始め管内産地のは入荷は減少傾向となったものの、荷動きは鈍く、荷凭れ傾向が続いた。盆明けからは、佐賀物のは入荷は日量10トン前後に減少し、長崎物（平戸産）のは入荷があるものの、品薄傾向となり、買参人の要望で淡路物も併売した。府県産地は終盤を迎え、入荷減から引き合いは回復している。北海物のは17日に初荷販売となったものの、連続入荷は21日からであった。此処に来て、佐賀物のは終盤となり、銘柄別に品質格差があり価格差が大きくなっている。長崎物のは品質良好で価格差はない。北海物のは日々入荷増の傾向だが、球流れは、L大が少なくLが多く、Lの販売に苦労している。

**8月25日(金)の建値市場の玉葱市況は次の通り**

**【札幌市場】** 入荷251トン、弱保合

北 海 20kgDB2L¥1,300~1,000、 L大 ¥1,850~1,100、 L ¥1,400~ 800、

〃 M ¥800 ~ 600。

北 海 20kgNT2L ¥1,300~1,100、 L大 ¥1,070~1,000、 L ¥800 ~ 700、

〃 M ¥400 ~ 300。

**【太田市場】** 入荷 315 トン、保合

北 海 20kgDB2L ¥1,700~1,600、 L大 ¥1,700~1,600、 L ¥1,300~1,100、

〃 M ¥800 ~ 700。

兵 庫 20kgDB2L ¥2,100~2,000、 L ¥2,100~2,000、 M ¥1,500~1,400。

**【名古屋北部】** 入荷110 トン、保合

北 海 20kgDB2L ¥1,800~1,700、 L大 ¥1,800~1,700、 L ¥1,300~1,200、

〃 M ¥1,000~ 800。

兵 庫 20kgDB2L ¥2,200~ L ¥2,200~2,000、 M ¥1,400~1,300、

〃 S ¥1,000~ 800。

**大阪本場】** 入荷114 トン、保合

北 海 20kgDB2L ¥1,700~1,600、 L大 ¥1,800~1,600 L ¥1,400~1,100、

〃 M ¥800 ~

兵 庫 10kgDB2L ¥1,300~1,100、 L ¥1,300~1,100、 M ¥900 ~ 700。

兵 庫 20kgDB2L ¥2,200~ L ¥2,200~ M ¥1,500~1,400。

**【福岡市場】** 入荷112 トン、保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000~1,800、 L大 ¥2,000~1,600、 L ¥1,500~1,300、

〃 M ¥1,100~1,000、

佐 賀 10kgDB2L ¥1,200~ 800、 L ¥1,200~ 800、 M ¥900 ~ 600。

長 崎 10kgDB2L ¥1,200~1,000、 L ¥1,200~1,000、 M ¥900 ~ 700。



## 供給(産地)の動き

8月の出回り量は、府県産地の在庫増や輸入物の滞貨増に加えて、北海物の出荷が前進化し、供給過剰が心配されていたが、北海物の出荷が後ズレしたことで、需給はかなり改善された。8月に入ってから天候は、北・東日本が降雨続きで、東京で連続21日、仙台で連続32日の降雨に見舞われ、日照不足で野菜の出回り量が減少し、多くの品目が品薄高となった。玉葱は北海産地の出荷が後ズレしていることを受けて、佐賀、兵庫など府県産地では、京浜市場を始め、北・東日本市場に重点に出荷をしたことで、西日本市場では需給が改善され価格が強含みで推移したし、京浜市場では上旬比10%前後値上がりした。府県産地の多くは、出荷に前向きで、一部を除き8月末には即売出荷は終了する。

北海道産地では、極早生の収穫は例年通り始まったが、府県産地の在庫増と荷受け各社からの出荷先送りの要請と、天候不順などで出荷は後ズレしている。現在、8月市況は予想外の安値となったことで、出荷は先送りの傾向にある。作柄は、局部的な湿害はあるものの、全道的には平年作は確保出来ると見られている。現在、出荷の球流れは小粒傾向で、L、Mが多く、L大とLの価格差が大きく、平均価格は再生産価格を割り込んでいる。

### 府県産地

主産地の佐賀では、出荷は一部を残し、今月末にはほぼ終了する。近年、高温時に多発する黒煤を心配して、出荷を前倒した生産者も多いと言う。今年は真夏日が多かったが黒煤の発生は意外に少なかった。7月市況が安値で低迷したことで、冷蔵庫に仮貯蔵されていた玉葱も、盆前後の市況回復で、出庫され冷蔵在庫は少ない。

中晩生主力の兵庫(淡路)も即売出荷は、終盤を迎えている。北海物の出荷の後ズレで、盆前後の市況が回復したことを受けて、出荷が促進された。淡路

島でも、高温時の黒煤の発生懸念と、市況安で冷蔵入庫が前進化したが、8月の入庫は案外少ない。7月末時点の入庫は23,000トンで前年比150%にとどまっている。通常は、市況を眺めながら、9月まで入庫が続くが、今年は8月中に終わりそうだ。

### **北海道産地**

生育は全道的にやや前進化していたが、極早生は根切り後の枯れ上がりが遅く、収穫は、平年並みか遅れ気味となった。早生は、早や出し出荷が有利とされてきたが、今年は府県物の在庫が豊富で、安値市況が続いているため、収穫・出荷を先送りしている生産者が多い。現在、出荷の極早生の球流れは小振り、L、Mが多く、採算値を大幅に割り込んでいる。全道的な作柄は平年作だが、空知物に乾腐病が散見され、市場サイドから厳選出荷が求められている。今年はハマグリバエの発生は見られない。此の先、順次普通早生から中晩生の出荷に移行するに従い球流れが改善し、現在よりも大粒化すると見ており、早急な市況回復を期待している。何としても再生産価格を確保したいものだ。

### **外国産地**

7月の輸入は速報値で、23,757トン前年比79%、5～6月に輸入した品物が、需要不振で滞貨が多いことや、国内産が潤沢なことで、減少傾向が続いた。国別の輸入量は、中国が20433トン前年比83%。オーストラリヤが2,015トン前年比214%。ニュージーランドが1,334トン前年比42%となっている。

中国、主力産地は甘肅省に移行している。現地からの報告では、作柄は豊作型だが、韓国からの引き合いが強く、産地相場は値上がりしており、出荷に焦りはない。と言う。現在の日本向け価格は、20kg・C&F・ムキ玉 \$8～.9で前月比 \$2近く上がりしている。

アメリカ、日本のマーケットが供給過剰で、軟調相場が続いているので、成約は殆どない。生育期に熱波に見舞われ、球流れは小粒傾向と聞いている。現在のオファー価格は、カリフォルニア産50&・SJサイズ・C&F・\$12.である。

## 9月の市況見通し

北海物の出荷が最盛期に入り、市場は北海物主力の販売となる。品種を問わず極早生は、品質劣化が早くストック出来ないため、相場の高安に拘わらず、出荷を促進化する必要がある。従って9月～10月前半は、需給緩和で市況は底値に落ち込む可能性が高い。他方、府県物は品薄となり、相場は安定化する。北海物は20kg・L大 ¥1,600～1,500。府県物はL・ ¥2,100～2,000を予想。(了)